

すがたから見つける、私の好きな観音さま ～スタンプでしおりを作ろう～

会場： 京都国立博物館 平成知新館
会期：2020 年 4 月 11 日～5 月 31 日
紹介： 京博ナビゲーター
編集： 京都国立博物館 教育室
発行： 2020 年 4 月 11 日発行

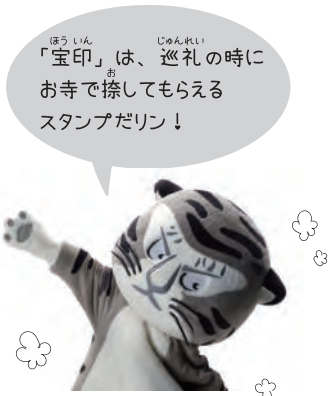
「西国三十三所」ってなに？

日本最古の巡礼路！

「西国三十三所」は、観世音菩薩（観音）を祀るお寺（観音霊場／札所）を巡る日本最古の巡礼路です。これらのお寺は和歌山・大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・岐阜に点在し、3 分の 1 が京都に集中しています。巡礼路の総距離は約 1000 キロメートルに及びます。

始まりの伝説

その始まりは、はっきり分かっていませんが、次のようなお話があります。今から約 1300 年前の奈良時代、大和国長谷寺の徳道上人は仮死状態になり、閻魔大王に出会います。閻魔大王は、上人に巡礼の功德を広めるよう告げ、33 の宝印を授けました。蘇った上人は、極楽往生の通行証となる宝印を三十三か所の寺院に配り、巡礼を広めようとしします。しかしこの時はなかなか発展せず、平安時代になって花山法皇が復興させたといわれています。



観音さまは変身上手！

信仰を集めた観音さま

『観音経』の名でも呼ばれる『妙法蓮華経（法華経）』の普門品は、どんな苦難に遭っても、一心に観音の名を称えれば、直ちに救われると説きます。「西国三十三所」の 33 という数字は、観音が観音とは別の 33 の姿に変身して救済に現れるという信仰に基づいています。

様々な観音さまの姿

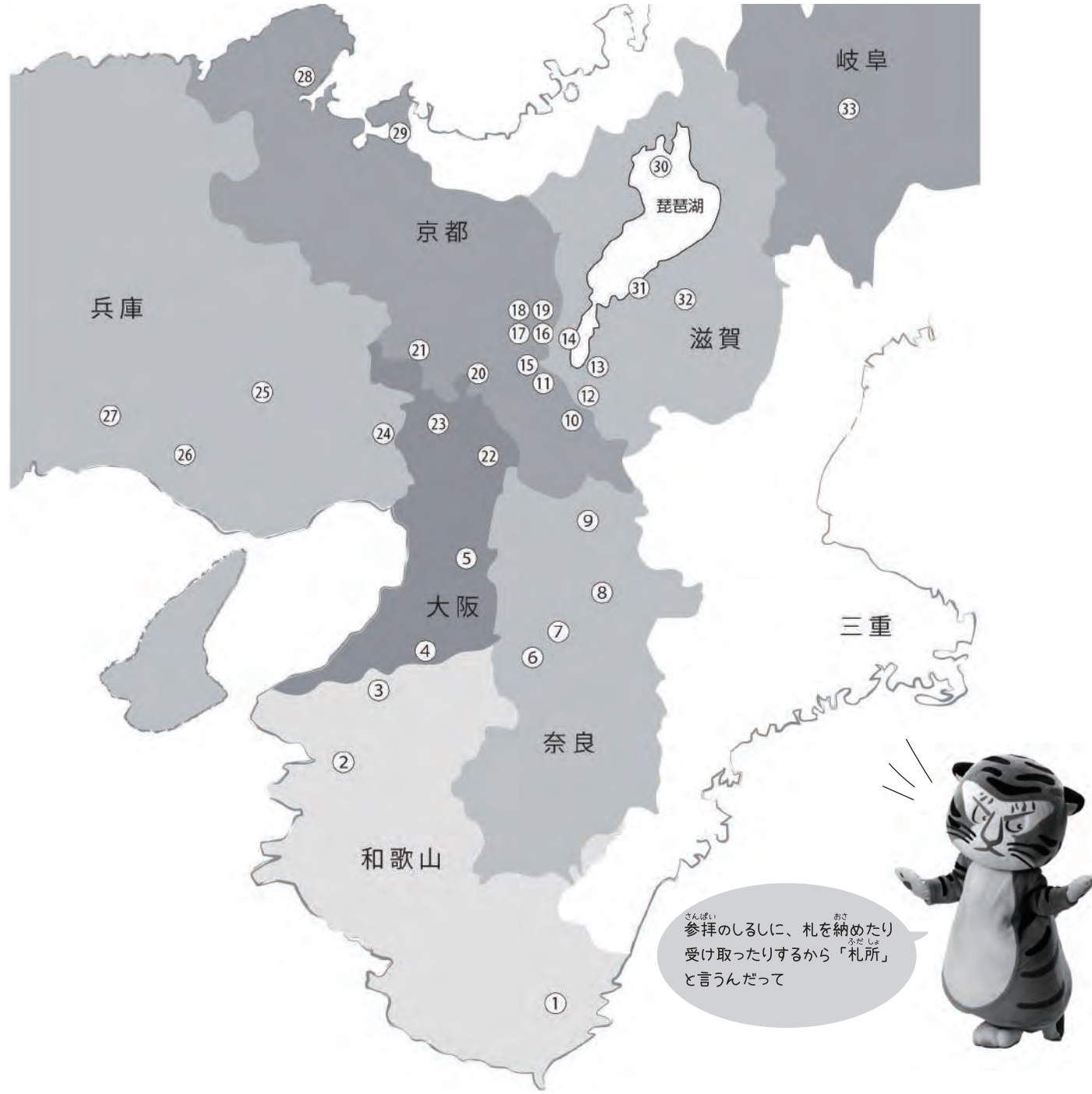
1 つの顔と 2 本の腕を持つ人間の形に近い聖観音（正観音）を基本形として、顔や腕、目などがたくさんある観音を「変化観音」と呼びます。変化観音は、能力やご利益のすばらしさを強調するために造形されたと考えられています。

ろくかん のん しちかんのん 六観音・七観音

六道に迷う私たちを 6 尊の観音が救ってくれるという「六観音信仰」が、10 世紀ごろから盛んになりました。6 尊の観音は、真言宗では聖観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、如意輪観音、准胝観音 で、天台宗では准胝観音の代わりに不空縑索観音を加えます。これらを合わせて七観音と呼び、「西国三十三所」のお寺は、この七観音のいずれかを本尊としています。



西国三十三所札所 地図



- | | | | |
|---------------------|-------------------|---------------|------------|
| ①那智山 青岸渡寺 | ⑨興福寺南円堂 | ⑰補陀落山 六波羅蜜寺 | ⑲御嶽山 播州清水寺 |
| ②紀三井山 金剛宝寺護国院（紀三井寺） | ⑩明星山 三室戸寺 | ⑱紫雲山 頂法寺（六角堂） | ⑳法華山 一乗寺 |
| ③風猛山 粉河寺 | ⑪深雪山 上醍醐・准胝堂（醍醐寺） | ⑳靈應山 行願寺（革堂） | ㉑書寫山 圓教寺 |
| ④槇尾山 施福寺（槇尾寺） | ⑫岩間山 正法寺（岩間寺） | ㉒西山 善峯寺 | ㉒成相山 成相寺 |
| ⑤紫雲山 葛井寺 | ⑬石光山 石山寺 | ㉓菩提山 穴太寺 | ㉓青葉山 松尾寺 |
| ⑥壺坂山 南法華寺（壺坂寺） | ⑭長等山 園城寺（三井寺） | ㉔補陀落山 総持寺 | ㉔竹生島 宝厳寺 |
| ⑦東光山 岡寺（龍蓋寺） | ⑮新那智山 観音寺（今熊野観音寺） | ㉕応頂山 勝尾寺 | ㉕姨綺耶山 長命寺 |
| ⑧豊山 長谷寺 | ⑯音羽山 清水寺 | ㉖紫雲山 中山寺 | ㉖皷山 観音正寺 |
| | | | ㉗谷汲山 華厳寺 |



しょう かん のん 聖観音（正観音）

- 1つの顔と2本の腕（一面二臂）
- 人間の形に近い姿、観音さまの基本形
- 阿弥陀如来の化仏（小さな像）があるのが一般的
- 左手に蕾の蓮華を持ち、右手の指先でその花びらを開かせようとする姿のものもある



じゅう いち めん かん のん 十一面観音

- 小さな顔が11あるのが基本
- てっぺんの顔は如来の姿であることが多い。他は菩薩の姿で、やさしい顔、怒った顔、牙のある顔、大きな口を開けて笑う顔などをしている
- 2本の腕で表現されることがほとんど
- 左手に水瓶（または蓮華）を持ち、右手を下げる人が多い

☆たくさんの顔はあらゆる方向を見守っていることを表す

せん じゅ かん のん 千手観音

- 1000本の腕があり、手のひらには目がついている
- 彫像は42本の腕で表されることが多いが、実際に1000本近くの腕を表すことも
- 頭上に小さな11の顔があることが多い

☆たくさんの腕は、さまざまな方法で多くの人々を救うことを表す



によ い りん かん のん 如意輪観音

- 1つの顔に腕が2本または6本（一面六臂）の姿が多い
- 如意宝珠と法輪を持つ
- 右膝を立てて、両足裏を合わせて坐る姿が多い

☆如意宝珠……あらゆる願いをかなえるという珠
☆法輪……車輪がころがるように、仏の教えが悪いものをくじき、広く伝えることをたとえたもの

しち かん のん すがた 七観音の姿

かん のん ぼ さつ 観音菩薩は、ほかの菩薩と同様にさとりを得るために修行中です。そのため、その姿はさとりを開く前の王子だった頃の釈迦がモデルになっています。頭上の宝冠、腕や胸の飾りなど、古代インドの貴族のような、きらびやかな装身具を身につけています。

じゅん てい かん のん 准胝観音

- 1つの顔に腕が18本（一面十八臂）の姿が多い
- 額には第3の目がある

☆数々の仏を生み出した仏母としても信仰される
☆西国三十三所で本尊にしているのは上醍醐・准胝堂（醍醐寺）のみ



ば とう かん のん 馬頭観音



- 頭上に馬の頭をあらわしている
- 観音さまの中では珍しく、怒った顔で牙があり、赤い色とすることが多い
- 3つの顔に腕が8本（三面八臂）の姿が多い
- 額には第3の目がある
- 中央の手は、馬口印と呼ばれる独特の形

☆飢えた馬のように害悪を貪り食い粉碎する力をもつと考えられた
☆西国三十三所で本尊にしているのは松尾寺のみ

ふ くう けん じゃく かん のん 不空罽索観音

- 1つの顔に腕が8本（一面八臂）の姿が多い
- 手に罽索（ロープ）を持つ
- 額には第3の目がある
- 鹿皮の衣をまとう

☆罽索……あらゆる人を必ず救い取る縄
☆西国三十三所で本尊にしているのは興福寺南円堂のみ

